

5

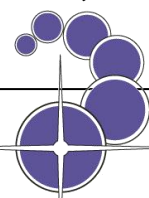
CREATIVE

学 年 だ よ り

第7号 令和2年5月9日

県立村上中等教育学校（15期生）

●こんな時だからこそ、考え、感じていこう！



Keep Distance

休校が続きます



ところで、暦は5月となりました。泉にいたり、埼玉の親友のところ慮なく笑ったりできるというのは、感じています。また一見、やっかいな行事の立案なども、「産みの苦しみ」を伴いながらも、遠慮なく、ああだ、こうだと議論しながら、コンプリートできるというのは、実はありがたい行為だったんだな、と思っています。

ただ、そうはいつでも、下ばかりを向いているわけにもいきません。皆さんは小学校6年生の時に、自分の人生をきりひらこうと、本校入学という決断を下しました。以前、学年集会でも話をしましたが、私自身としては、皆さんのその意思を大切にしたいという思いがあり、また期待感もあります。皆さんが本校を卒業し、地元や、他県、他国をまたにかけ、様々なフィールドで、人類に寄与できる存在であってほしいという期待感です。当然、その素質があると信じているからにはほかなりません。

ですから、こんな日々であるからこそ、皆さんには「自分ならこんなことができそうだ」とか、「自分ならこうするのに」といったことを、どんな些細なことでもかまいませんから、ふとした時間を使って、考えてほしいと思います。

今、まさしくいろいろな側面でのパラダイムシフトが求められているのだと思います。しかし人はものを考え、創造する力があります。ぜひこの時期をいかし、これからの時代を担う基礎をつくりましょう！ 私自身も、自分の役割を確認しつつ、小さいながらも、その一歩を歩もうと思います。

私は仕事をする一方で、自宅の余暇ではお気に入りアーティストのライブDVDを発奮材料としながら、この難局を乗り切っています。お互いこの時期を「健康第一」を保ちながらも、しっかり周りを見て感じ、その基礎となる知識を蓄えていきましょう。ではまた学校で。

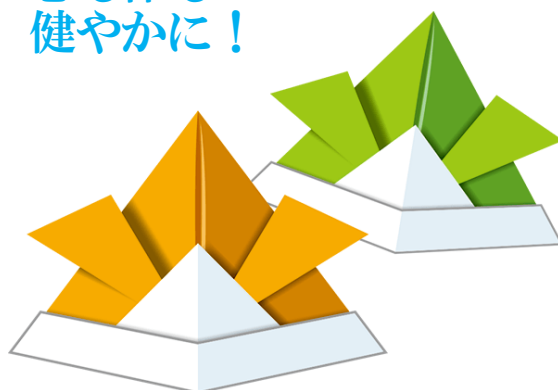
自宅にて 水戸 直和

私自身、家にいる時間が圧倒的に増え、しかも、テレビを見る時間が増えてきました。ここでマスクミ批判をするつもりは毛頭ありませんが、テレビからの情報が私の中に増えるにつれ、正直、心おだやかでなくなる時があります。

自分自身は、となると、家では好きなものをすぐに食べてしまいますし、自分が決めたタスクを遂行するにも、なかなかの意識が必要です。心と体を健全に保つには、大きな意識が必要であるということを、日々、実感しています。

気候が大変穏やかです。いつもなら、パーっと車を走らせ、温にまで出かけたりしていたものです。学校の授業などでも、遠あたりまえのことではなかったのだ、というのを五十歳手前にして

心も体も
健やかに！



パラダイムシフトが必要な今だからこそ、
15期生に期待します。

オモテ面で書いたように、私は皆さんに、ぜひこの難局に対し、自分ならどう動けそうか、ぜひ若くて柔軟な思考力を発揮したり、培ってほしいと考えています。今、誰ひとりとして、これが絶対正しい！という正解を導くことができません。ただよりよい方法を考えることはできると思うのです。私自身が興味をもった事例をいくつかあげますので思考のヒントにしてみてください。(水戸)

**君たちの知恵や思考がこの世界への
貢献となる。考えてみてほしい。**

1

他にモデルを探してみたり、代用してみる



すでに多く報道されていますが、今回の、新型コロナウイルスにたいし、別の病気向けに開発された既存の薬を使うことが検討されていますね。すでにあるものを、他の用途で活用できる場面はないでしょうか？ 実は私が専攻した心理学の記憶の研究も同様で、ヒトがものを整理し、記憶するありようを、コンピュータの情報処理のありようになぞらえ、モデルとし、その解明を目指しました。

また、(もう何度も話をしていますが)、アリの巣の構造を応用し、災害に強い建築構造を立案したり、カタツムリの殻の性質を利用し、汚れない建築素材を考えたりするバイオミクリーもこれと同じ発想かと思います。

2

引いてだめなら、押してみる

例えば高速バスに乗った時、後ろの人を意識して座席を倒すことにためらいを感じます。「すみません、倒していいですか」と尋ねることは心理的負担が大きく、一方、無言で前の人から席を倒されるとムっとしてしまいそうです。そこであるバス会社はお客さんが乗り込む前から、全席を最大限に倒した状態にしたとか。すると、お客さんは後ろに倒す必要はなく、必要によって前に倒すだけ！(失礼ながら)この工夫だけで売上げが飛躍的に伸びたということです。

3

あれこれくっつけてみる

まったく無関係に思われるものをくっつけてみる発想です。例えば現在、お湯をわかすポットにインターネット機能を持たせたものがあります。え、なんで？と思ってしまいますが、例えば離れて暮らす高齢の方にプレゼントすれば、遠く離れていても、その方の生活や無事をうかがうことができます。あれこれアンテナをはらないと、なかなか出てこない発想ですが、AI時代の今、人間ならではの特性が生かせると思います(ちなみに、モノとインターネットを合体したものをIoT: Internet of Things といいます)。何かと何かを組み合わせ、この難局を克服できるアイデアはないでしょうか。



4

実体験と定説を照らし合わせてみる(定説を疑う)



私の修士論文のテーマはここからスタートしました。多くの学者が「音読で英語学習は万全!」「音読さえすれば難しい文法なんて!」という声浸透していた時期がありました。しかし私は異議を唱えていました。普段の授業で成果がでない生徒がいたためです。そこであれこれ実験や調査をしていくと、「うわのそらで音読しても意味がない。理解することが前提で音読することが有効」という結論にたどり着きました。

相馬先生から布マスクをつくっていただきました!とても素敵で、あたたかなお気持ちを「創造」して下さったことに、心から感謝しています。

**人はこれまで様々な課題を克服しようと
思考し、そして創造してきた。
この世界に生きる私たち、ひとりひとりが、
今、考え、感じていることを、大切にしていこう。**